

長野高校 2 学年 SGH 通信	かかわ 五世界に繋る	第1号 (通算 27 号) 2016 年 4 月 11 日 (月)
------------------------	----------------------	--------------------------------------

◇タイトルの由来(再掲)

余 年二十以後 乃ち匹夫一国に繋る有るを知る 三十以後乃ち天下に繋る有るを知る
四十以後乃ち五世界に繋る有るを知る 『省譽録』 佐久間象山



「私は、二十代で自分も一国（藩＝地域）の運命に関わっていると知り、三十代で天下（日本国）の形勢に関わりがあると知り、四十代で全世界のあり方に関わりがあると知った。」

玄関でみんなを見下ろす松代の人、佐久間象山。動乱の幕末にあつて、西洋の先進性と日本の独自性を見極め開国を説いた先人の言葉をタイトルとしました。

● SGH の目的(再確認)

= 国境を越えた共働で課題を解決できる人物の育成

● 課題研究の目的

= 自分たちで課題を解決する練習

古い枠組みが揺らぎ課題が噴出する社会で、君たちが新しい枠組みや価値を作ってそれを解決していくために。

○年度当初の予定(4・5月)

4月11日(月) 13:00～ 学年集会(担当者紹介、4/16について、テーマについて、SGH スタッフ募集)
15:10～ 米国リーダー研修参加者ミーティング(311 教室)
研修振り返り、5/28 米国リーダー研修報告会について
4月12日(火) 12:50～ SGH(クラス)係会 土曜セミナーについて(311 教室)

4月16日(土) 土セミ 進路(SGH)講演会「地域を見つめ世界に繋る」 赤池 学氏
内 容 「課題発見の方法」
日 程 8:40 生徒 HR 教室集合→出席確認→SGH 係から配布資料を受け取る
8:50 小体育館へ移動(9:10 までに整列完了)
9:20～10:50 講演会
10:50～11:00 テーマ設定・班編成・研究を進める上での注意点
→HR 教室へ移動
11:20～12:20 個人テーマ設定(テーマその2)設定、班編成
12:20 ワークシート回収(SGH 係)
12:50～ 2年SGH スタッフ会議
学年正副リーダー決め。
スタッフの仕事について。
13:10～ 米国リーダー研修ランチミーティング

①個人でテーマ設定を行う。
②困ったら、担任・各教科の副担任の先生に相談してみよう。

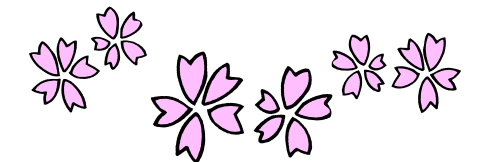
○課題研究について(当面)

約半年かけて課題研究に取り組む中で大切なことのひとつが“課題を発見すること(テーマ設定)”です。これができれば研究の半分は進んだようなもの、逆に言えば、“発見”までが大変です。テーマが徐々に変わっていくこともあり得ますが、まずは今、自分はどうなことに興味があるのかを絞り込んでいきましょう。

- ① 3月中に個人テーマ(その①)提出(既に提出されています。)
- ② 4月16日(土) 土セミ講演会終了後、個人テーマ(その②)を提出
→なるべくFW 先の候補も挙げられるとよい。
班編成はそれからで十分。まずは自分と向き合おう!!!
- ③ 4月19・20日 2年総合①
出されたテーマ(その②)・FW 先候補をみて、班編成を実施。原則：3～6名。
男女混合。研究(探究)計画作成。フィールドワーク先の選定。FW 先が決定していれば、アポを取り始める。
- ④ 4月26・27日 2年総合②
総合①の続き。研究計画完了。班編成完了。FW 先の決定。アポを取り始める

○連絡

- ・SGH スタッフ募集!!!「我こそは」という人はSGH 事業推進室へ(16日の講演会后、直接311 教室に来てもらっても構いません。)
- ・SGH スタッフ(希望者)はSGH イベントの企画や運営などを行います。SGH クラス係(各クラス2名)は連絡や提出物の配付・回収など事務的な仕事を担っていただきます。
- ・16日の講演会では「パワーリスナーのなり方」についても話があります。パワーリスナーとは何か? 講演会を聞いた後の質疑の時間に内容の理解度が確認できると思います。長校生のパワーに期待しています。



米国リーダー研修報告 「広がった私の世界的視野」

1、研修への参加目的

この高校に入学したときから、米国リーダー研修に絶対参加してやる！と強く思っていた。理由は、単純に言えば海外が好きだったからだ。しかし、そのときの“好き”は実際に海外に行き、いろいろな経験をしたうえでの“好き”ではなく、想像や情報から得られる憧れからくるものだった。グローバル化という言葉がにぎわうようになった今日の社会において、自分の進路決定や自身のグローバル化のためにも、この研修に参加するべきだ！と思ったのだ。そして、世界一の大国アメリカは果たしてどんな国で、街の雰囲気はどうか、人々の暮らしはどうか、母国日本と比較したときの良点、欠点はどこなのか。自分の今の英語力と共に、未知なるアメリカの数々の“本物”を自分の目で確かめたいと強い思いも胸にこの研修に参加した。

2、自分の係としての活動について

この研修で私が担当した係はアメリカ現地の高校、ミルバーンハイスクールの生徒達との交流係だった。私がアメリカを含めた外国を好きになったきっかけが、『アイカーリー』『ビクトリアス』『ハイスクールミュージカル』などの学生が中心に繰り広げられるドラマや映画だった。なので、ミルバーンハイスクールの生徒達との交流もこれらの作品の雰囲気も感じられるのではないかと微かな期待も兼ねていた。私はアメリカの方達と SNS 上で連絡をとりたいたとも思っていたので、係長に頼んで、当日の授業やクラブ見学の希望調査などの部分でアメリカの方との英語での通信のやりとりに関わらせていただいた。「こんな文法復習みたいな文でアメリカ人に笑われないだろうか」と心配だったけど、「Nijihosan...」と私宛に返信がきたときの喜びはこの上ないものであって、少しグローバルな自分になったなあ嬉しかった。

アメリカ人の英語は日本人でいう日本語なのだから、返信の文はとってもこなれた文で最初はうまく訳せなかったけど、だんだんとプランが進んでいくので自分の英語の訳も文も伝わったんだ！と実感できた。しかし、アメリカ人は日本人との違いでなかなか確実な日程を決めさせてくれないというところがあり、日本でとった希望調査が決定までに3, 4回ほど組直さなくてはいけなくなり、少し困った。今思えば、それとても良い経験だし、学びにつながったと思う。

3、目標とその達成度

私のこの研修旅行での目標は、「どんどん学び、どんどん話す、経験したことのないことを経験する」としていた。正直なところ自分はそのまで英語の発音がおかしかったり、スムーズに話せないと感じてはなかったから、英語を使って生活することにそこまでこの旅で苦にはならないだろうという変な自信があった。でも、実際ボストンの空港で入国審



査の際にアメリカ人の審査官に英語で話しかけられたとき、中学レベルである英語が聞き取れなくて、余裕のある答えができなかった。その後も自分の言いたいことがなかなか英語で伝えられないもどかしい気持ちになることが続いた。

しかし、ミルバーンハイスクールとの交流のときに、相手が自分と同年代ということで自分の中で殻をやぶって、簡単な質問でもいいから、言いたいことを伝えようと思い勇気を出して自分から英語で話しかけてみた。すると、早く聞き取りにくかったが、自分が伝えたいことがやっと伝えられたという実感を味わった。そしてその後からはほっとできたのか、本来の自分アメリカの高校生と接することができた。研修旅行での目標の達成にやっと近づいたと思った。自分からどんどん、伝えたい、話したいという気持ちがあれば、英語の上手さなんて関係ない、相手はちゃんと受け止めてわかろうとしてくれる。新たな自分に少しでも一歩前進できたかなと思った。次またアメリカに来るときはもうこんな心配はいらないと思う。仮に失敗したとしても、自分から“どんどん”向かっていこうと思う。大きな達成感はまだあまり感じられないが、次へとつなげられる満足感でいっぱい。

4、旅行で得たもの

私が今回の研修旅行で得たものは、一番は日本だけでなく世界に対する興味だ。MITの日本人学生さんやアメリカで暮らす弁護士のOG、国連で働く日本人職員の方の話を聞いて、私も世界に出て働いたり生活してみたい！という気持ちがますます強まり、英語の大切さ、文化の違いを自分の身を持って感じる事ができた。ここは日本の方がいいとか、ここはアメリカのようになればいいのになあとかたくさん感じ取れた。話を伺った現地の日本人の方は皆、“恐れずにチャレンジしてみる”ということをやっていた。アメリカは危険だとか、情報のみの断定は決して良くない。アメリカは素晴らしい国だった。レジでお会計をしてもらうたびに「Hi! How are you?」と聞いていてくれるところ、アメリカンジョークで笑わせようとしてくれるところ、個人を尊重し必ず1つ何か褒めてくれるところ。日本人にはないアメリカ人の良さをたくさん経験することができた。でも私の準備不足や英語力不足もあり、やり残してきてしまったと思う部分もいくつかある。

私は、また必ずアメリカに何らかの形で来よう！と強く決めた。今度は、日本の良さをアメリカの人々に伝えたい。そして、日本とアメリカの結びつきを自分の手で少しでも強めたい。また、英語を上達させて、こんな素晴らしい経験をさせてくれた家族を連れてアメリカへ行き今回学んだことを家族に教え、見てもらいたい。普通の研修旅行じゃありえないところまで私達のためにプログラムを準備してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱい。この経験を無駄にすることがないように、これからの人生に大いに活用していこうと思う。世界一の大国はやっぱりすごかった。そこで自分も活躍できるように4月からまた気合いを入れて生活していこうと思う。

